学校番号	１００１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新編　数学Ｃ　（実教出版）						
副教材等	スパイラル数学Ｃ　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、数学的事象を論理的に解決し、表現する活動を行います。また、個人だけではなく周囲と協力して課題を解決する活動も行ないます。
・「課題を理解する → 結果を予想する → 解決の方向を構想する → 解決する → 解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連のプロセスで、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・粘り強く取り組むことが大切なので、家庭学習を含めた継続した学習が必要です。

2　学習の到達目標

【知識・技能】
抽象的な数学的対象（ベクトルや複素数など）を用いて、図形や関数を多角的に理解する力を身につける。
【思考・判断・表現】
空間的・幾何的な問題を、代数的なアプローチで解決する力を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】
高度な数学的概念を用いて、論理的に考え、表現する力を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学的対象に関する基本的な概念，法則・定理，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身に着けている。	数学的な見方や考え方を生かし自ら工夫して問題を解決したり,判断することができる。	多面的にものを見たり，理論性のあるいろいろな考えに触れたり，試行錯誤しながら考え，主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

前期	ベクトル	1章　ベクトル 1節　平面上のベクトル 1　ベクトルとその意味 2　ベクトルの演算 3　ベクトルの成分 4　ベクトルの内積	a:ベクトルの基本的な概念や記号の意味、基本的な演算、実数倍と平行の関係を理解している。 ベクトルの大きさを求められる。 内積を用いて、2つのベクトルのなす角を求めることができる。 b:向きと大きさだけに着目する抽象的な考え方ができる。 ベクトルの実数倍と平行の関係について、またベクトルを成分表示で表した場合の演算について、その考え方や意味を考察できる。 C:向きと大きさをもつ量に関心をもち、ベクトルの基本的な概念や性質を調べようとする。 内積について関心をもち、2つのベクトルのなす角や大きさを調べようとする。	定期考査 小テスト 問題集	定期考査 問題集 ワークシート	問題集 観察
	ベクトルの応用	2節　ベクトルの応用 1　位置ベクトル 2　ベクトルの図形への応用	a:位置ベクトルの意味を理解し、分点の位置ベクトルを求めることができる。 分点の位置ベクトルや内積を利用して図形の性質を調べる方法を理解している。 直線や円のベクトル方程式とその図形の方程式の関係を理解できる。 b:位置ベクトルを用いて図形を処理する考え方のよさを認識できる.また、位置ベクトルを用いて図形の性質を多面的に考察することができる。 ベクトル方程式や媒介変数表示のよさを認識できる。 c:位置ベクトルに関心をもち,図形の考察に活用したり、多面的に調べたりしようとする。 ベクトル方程式に関心をもち、図形の考察に活用しようとする。	定期考査 小テスト 問題集	定期考査 問題集 ワークシート	問題集 観察

	空間のベクトル	3節　空間のベクトル 1　空間の座標 2　空間のベクトル 3　ベクトルの内積 4　位置ベクトルと空間の図形	a:空間における点の位置の表し方や２点間の距離の求め方、空間におけるベクトルが定義、および平面上のベクトルと同様に扱えることを理解できる。 内積を用いて、２つのベクトルのなす角を求めることができ、平面の方程式や球面の方程式を理解している。 b:空間座標の概念を認識し、空間における点の位置や 2 点間の距離を考えることができる。 平面のベクトルから類推により空間のベクトルの性質を数学的に考察し表現することができる。 内積を用いて、空間図形の性質を考察することができる。〃 c:空間のベクトルの基本的な概念や性質を調べ、空間の図形の考察に活用しようとする。	定期考査 小テスト 問題集	定期考査 問題集 ワークシート	問題集 観察
後期	複素数平面	2章　複素数平面 1節　複素数平面 1　複素数平面 2　複素数の極形式 3 ド･モアブルの定理 4　複素数と図形	a:和・差・実数倍の図表示の仕組みを理解している。複素数の極形式で表すことができ、極形式による積や商を理解している。またド・モアブルの定理とその使い方、複素数平面上の線分の分点を表す式や円の方程式、垂直二等分線の方程式を理解している。 b:和･差が点の平行移動や平行四辺形の頂点として表されることを、極形式による複素数の乗法や除法の仕組みを、さらには n 乗根の複素数平面上での配置について考察できる。また複素数平面上の図形について、複素数の計算で調べたり、方程式の表す図形を考察することができる。 c:・複素数平面に関心をもち、複素数の図表示や絶対値および極形式について理解しようとする。	定期考査 小テスト 問題集	定期考査 問題集 ワークシート	問題集 観察

	媒介変数表示と極座標	2節　媒介変数表示と極座標 1　媒介変数表示 2　極座標 3　極方程式 4　いろいろな曲線	a:ある条件を満たす点の軌跡を媒介変数表示できる。 極座標の意味や極座標と直交座標の関係を理解している。また直交座標 x, y の方程式と極方程式を相互に変換することができる。 b:条件を満たす点の軌跡を媒介変数で表し、その特徴を考察することができる。 図形を極座標の考え方や見方を用いて表現し、その特徴を考察できる。 極方程式から図形の特徴を考察することができる。 c:コンピュータソフトを用いて、媒介変数表示された曲線を描いて理解しようとする。 コンピュータソフトを用いて、極座標で示された点を描いて調べようとする。	定期考査 小テスト 問題集	定期考査 問題集 ワークシート	問題集 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度